



自由民主党蒲郡市議団
代表 伴 捷文

堅実な行財政運営の
考え方は

問 平成30年度の予算編成にあたり、配慮した点について伺う。

答 将来の町づくりの大きな目標である「夢と希望に満ちた、明るく輝く元気な町」を目指し、重点的、効果的な予算配分に留意し、市民の皆さんが健康であることが第一と考え、さらなる健康増進につながる事業や安心して子育てができる体制整備に配慮した。

公共施設マネジメント
について

問 地区個別計画の策定をどのように進め、事業に着手していくのか。

答 30年度も2地区でワークシヨップを実施し、31年度までに全7地区の地区個別計画の策定を考えている。事業は、地区個別計画を策定した地区で実施が可能なものから順次着手していきたい。

市民病院の安定経営
について

問 休床していた病床を再開した背景は。

答 病床稼働率が高まっていることに加え、新たな医師の確保等により、今後も稼働率の上昇が予想されるため、60床を再開した。30年度から始まる人間ドック事業の受診希望者の見込みは。

答 国民健康保険被保険者の受診希望者は485人で、追加も見込まれる。また、他の健康保険組合か

らの受診も見込まれる。

新体育館建設の考え方は

問 新体育館建設に対する考えは。

答 求められる機能・ニーズを把握し、幅広い年代が魅力を感じる施設にしなければならぬと考えている。具体的にどのような施設にするかは基本計画の中で定めていきたい。

蒲郡自由クラブ
代表 牧野泰広

一色最終処分場の今後
について

問 グラウンド等としての活用の可能性を伺う。

答 処分場の廃止時期ははっきりしないが、廃止後の跡地活用については、庁内の関係部署による会議を開き、検討を進めている。企業用地の造成やグラウンドとしての活用について、課題を含めた可能性の整理を始めている。

市民病院の安定経営
について

問 国が示している平成30年度の診療報酬改定をどう捉えているか。

答 市民病院が届け出ている一般病棟7対1入院基本料は10対1入院基本料と再編・統合され、急性期一般入院基本料に一本化される。10対1看護配置を基本として、重症度、医療・看護必要度の該当患者割合に応じた7段階の診療報酬



地域医療を支える市民病院

が設定される。今すぐに看護配置の見直しはしないが、診療報酬改定には柔軟に対応していきたい。

問 患者にワンストップでプライマリケア（総合的な医療）を提供すべきと思うが、考えを伺う。

答 まずは、地域の開業医をかかりつけ医としてもらい、市民病院は二次医療機関として専門的医療が必要な患者へ適切な治療を提供する。救急外来などの現場では、医師として幅広い判断も必要となり、総合的な医療知識を幅広く身につけることが重要である。今後は、総合診療科の新設も検討していきたい。

再生医療の新たな可能性
について

問 市民病院における今後の再生医療の新たな可能性や計画について伺う。

答 まずは、実現の可能性が非常に高まった白斑治療について、着実に進めることを最優先に考えている。今後、高まる医療ニーズに対して再生医療が果た